文部科学省 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業

関西学院WWLC構想

“AI活用 for SDGs”「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」

～ Society5.0に向けたWWLCリーディング・プロジェクト ～

関西学院高等部
KWANSEI GAKUIN SENIOR HIGH SCHOOL

関西学院 WWLC構想

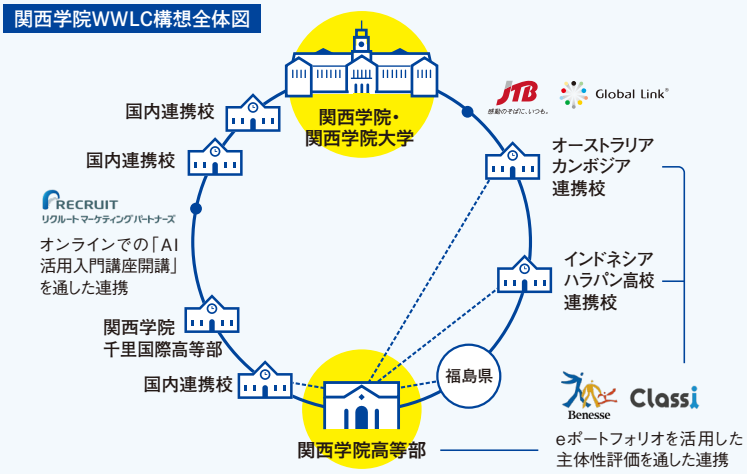
［ 構想名 ］

“AI活用 for SDGs”「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」

～Society5.0に向けたＷＷＬＣリーディング・プロジェクト～

これまでのSGH事業の取り組みや教育資源を活用し、先進的なカリキュラムの研究開発と実践を行います。関西学院大学が中心となり、拠点校をはじめとする高等学校等と国外の大学、企業、国際機関等と協働し、Society5.0を牽引するイノベーティブなグローバル人材を育成するためのアドバンストラーニングを提供するネットワークを構築。地球と人類に貢献し平和を構築するためのAI活用をテーマに各種取り組みを行います。

関西学院WWLC構想全体図



拠点校としての関西学院高等部の取り組み

❶ **文理科目をバランス良く配置したカリキュラム**
授業・課外活動双方において、平和やSDGsをキーワードとした教科横断型で体系的なカリキュラムを開発。

❷ **グローバル探究BASIC【1年次】**
高校1年次はグローバル探究BASICで、AI活用・国際協働・ハンズオンラーニングの基礎を学ぶ。

❸ **グローバル探究BASICメンバーを核とした必修選択科目【2年次】**
「AI活用演習」「グローバルスタディ」「ハンズオンラーニング」などを必修選択科目として開講し、対象生徒を増やす。

❹ **高校2年次の発展形となる選択科目【3年次】**
国内外のフィールドスタディなどを踏まえ、連携校とそれぞれの知見を活かし、平和構築に向けた国際シンポジウムを開催。

❺ **生徒の主体性を育むeポートフォリオ**
ICT環境を活かし、すべての生徒が授業・課外活動双方において効果的にeポートフォリオを活用する。

❻ **多様な進路の検討**
英語での探究活動や、国内外での研修を経験する中で、海外大学進学などを含めた多様な進路を視野に入れる。

❼ **関西学院大学による講座提供**
関西学院大学による選択科目として様々な講座を提供。一部の科目は大学の単位認定も可能とする。

「凡ての人の僕たれ」

関西学院高等部の源流は、131年前の1889年に関西学院普通学部として誕生した時に遡ります。アジアやアフリカなど世界各地で活動した宣教師で医師でもあったWalter Russell Lambuthによって創立された関西学院は、当初から国際的に開かれた学校であることを使命としてきました。

本校は、「凡ての人の僕たれ」という聖書からの言葉を大切にしています。常に、キリスト教を通して、他者に仕え世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心や真摯な態度を備えた人格を培うことを教育の根幹に据えています。

ますます混迷を深める現在の世界情勢を考える時に、「グローバル化」、「グローバル社会」、あるいは「グローバル人材」とは何かを改めて問い直す必要に迫られています。グローバルと言えば外の世界に目を向けがちですが、生徒たちには広い世界にはばたくと同時に、国内の諸問題にも関心を持ち、内側にも目を向けることができる真のグローバルリーダーとなって欲しいと考えています。また、これから迎えるSociety5.0、その社会において「誰一人置き去りにしない持続可能な社会」を目指すことを目標とするSDGs。その目標達成のために私たちは取り組みます。

「他者に、世界に仕える使命感」をこの現代の社会に活かし、また、関西学院の根幹にあるキリスト教主義教育に基づいたスクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する「世界市民」として、一人一人が「平和な社会を築く担い手」となることを、WWLC事業の目的としています。

関西学院高等部長
枝川 豊

関西学院高等部の学び

"Mastery for Service"

1912年、第4第院長のC. J. L. ベーツが提唱した“Mastery for Service”は、「奉仕のための練達」と訳され、関西学院のスクールモットーとなっている言葉です。

関西学院創立者
W.R.ランバス

第4代院長・初代学長
C.J.L.ベーツ

キリスト教主義教育

キリスト教主義を建学の精神として、世界的な広い視野と価値観を持って活躍できる人間形成への営みを展開します。

世界市民の育成

世界への奉仕者として生きた創立者W. R. ランバスの精神を継承し、多様な価値観を持ち、グローバルに活躍する人間を育成します。

総合的な「人間力」の成長を目指す

独自のカリキュラムにより、生徒の創造性と自由性を伸ばし、大学で学ぶための学問的素地を養成します。

3年間の学びのステップ ―1年次 グローバル探究BASIC～2・3年次授業における取り組み―

SGH 2014～2018年度

「国際化重点大学との高大連携による実践的課題解決能力の育成」

1年次

グローバル探究BASIC(選抜生徒) 年間学習内容 <社会を知る・社会の中の自己を知る>

第1フェーズ

SDGsの概念や、17のゴールについて理解を深めます。身近な社会で起こっているSDGsの問題に目を向け、その解決策を見出していく中で、自分たちの生活に結び付けて考えることの大切さを理解します。

第2フェーズ

フィールドスタディを通して地域において様々なSDGsの取り組みをしている団体や人々の生の声を収集します。グループで協働してその現場を訪問することで、社会との接点を作り出す経験をします。

第3フェーズ

フィールドスタディで経験した「社会を知る・社会の中の自己を知る学び」を発表内容にまとめる過程の中で、これからの社会で高校生である自分たちが起こすべきアクションの方向性について考えを発展させます。

ソーシャル探究 (1年生全体)

ソーシャル探究は、1年生が学年全体で取り組む活動であり、3学期の毎週1時間を利用して、様々な社会問題(ソーシャルイシュー)について知識を深め、自分たち自身でその問題についてリサーチし、解決策について発表を行う活動です。学期末には各クラスから選ばれたグループがそれぞれの関心のある社会問題についてパワーポイントなどを用いてプレゼンテーションを行います。

VOICE

自ら学び進める面白さへの気づきから本当の学びが始まります。

グローバル探究担当　西室 雅央 教諭

グローバル探究BASICでは、SDGsの17の目標から生徒たちがそれぞれ興味のあるテーマを選び、自分たちにできることを探究していきます。フィールドスタディでは、企業、NGO、NPO、地方自治体など、実際にSDGsに取り組まれている団体を訪問し、現場の方々のリアルな声や熱い思いに触れることで、社会的課題を自分ごととして捉える意識を高めます。まだ知らない世界が広がっていること、また主体的に学び進める面白さに気づくことによって、高校生活やその先での取り組みがより発展的なものになるでしょう。

SDGsのために自分ができることを考える姿勢が身につきました。

2019年度 グローバル探究BASIC受講生　西久保 凛

フィールドスタディでは、関西で女性の社会進出に熱心に取り組んでおられる企業を訪問しました。「女性だからできない」のではなく「女性だからできること」で活躍されている方々のお話を伺い、固定概念やイメージに捉われている社会や自分自身に気づくことができました。グローバル探究BASICのメンバーは自分の意見をしっかり持っているので多様な考え方に触れることができ、また自分の見識を高める刺激にもつながります。2年生からはグローバルスタディの授業を選択し、さらに自分の世界を広げていきたいです。

2・3年次

グローバル探究A

AI活用

平和を構築するためのAI活用技術を身につける

これからの社会でますますその重要性が増すAIについて学び、そのAIを活用して様々な課題を解決する技術を学ぶことを目的とした授業です。実際にAIを利用している企業への訪問等を通して、AIを活用する技術を学んでいきます。

グローバル探究B

ハンズオンラーニング

現場で学び、社会的課題への当事者意識を育む

「教室を出て社会に学ぶ」ことを通じて、「平和」や「人権」という大きなテーマに真正面から取り組みます。戦争やエネルギー問題などの具体的な社会的課題に対する自分なりの答えを探るべく、まずはローカルな視点を持って探究を始めていきます。

グローバル探究C

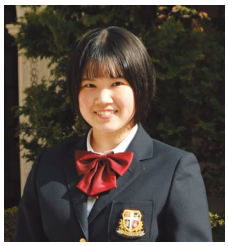
グローバルスタディ

外国の高校生とつながる探究と実践のプログラム

オンラインディスカッションを用いて、外国の高校生と共に身近な社会問題の解決に取り組むPBL型授業です。問題を感じとり、分析・議論し、解決策を企画・実行する中で、多様な価値観を越えての協働と探究の学び、そして実践的スキルを深めていきます。

AI活用

私はこの授業で課題解決に向けて新しいものを創り出す「発想力」を学びました。授業は身近な問題に対してAIにできることはないだろうかと試行錯誤し、自分たちで考えたAIシステムによって便利になる未来を企画立案する好奇心溢れるものでした。
現在、コロナウイルスの影響で社会のオンライン化が進んでいます。今後私達がAIと上手に付き合っていくために、今のうちに正しい AI の知識を身につけておく必要があると感じています。



2020年度 AI活用受講生
辻 綾香

ハンズオンラーニング

「私たちが戦争について何を知り、何をするべきか。」戦争を知らない私たちができる取り組みとして、あまり知られていない関西学院の戦争の事実や背景を、ARマップの作成を通して伝承することを実践しました。75年前の戦争が物語る教訓をどのように未来の平和構築につなげるかを考えたことで、身近な所でSDGsの達成に少し近づけたと感じています。
小さなステップをまず踏むことが国際社会に生きる私たちの役目であると、この授業を通じて思いました。

2020年度 ハンズオンラーニング受講生
東谷 大輝

グローバルスタディ

グローバルスタディでは、フィリピンのNGOスタッフとオンラインディスカッションを行い、地球温暖化に対する危機感や対応の差を実感しました。SDGsは政府や各国のリーダーだけで解決すべきものではなく、一人ひとりが日常生活のなかで問題を解決するためのアクションを行う必要があると気づくことができました。身近に溢れている情報に幅広くアンテナを張り、自分の考えを様々な人と深め合って、実際に行動を起こしていきたいです。

2020年度 グローバルスタディ受講生
西田 七菜

関西学院大学との高大連携プログラム

AL（アドバンストラーニング）ネットワーク・プログラム

関西学院・関西学院大学では、関西学院高等部をはじめ全国の連携校で形成する「ALネットワーク」において、
高校生が果敢にSDGs（持続可能な開発目標）の課題解決にチャレンジできるプログラムを提供しています。

実施内容

- WWL・AI活用人材育成プログラム
- SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEAM系の「探究・課題研究」への支援（講師派遣等）
- アドバンストプレースメント（単位履修・高大連携科目）
- WWL 連携校・拠点校高校生交流会
- WWL・SGH×探究甲子園
- テーマに基づく国際会議

AI活用ワークショップ

関西学院大学においてAI活用人材育成プログラムを受講している大学生と、WWLC拠点校・連携校の高校生が参加し、AIを活用した課題解決のアイデアや開発したアプリケーションについて情報を共有しディスカッションするプログラムです。学生・生徒がチームを編成し、それぞれの得意分野や知識を活かし、チームで一つの企画をまとめ、発表とディスカッションを通して、さらなるブラッシュアップへつなげます。2020年度は、オンラインで発表とディスカッションを行いました。

WWL・SGH×探究甲子園

2019年度まで実施してきたSGH甲子園を発展させて、より世界に広がる学びを意識。地球課題のSDGs（持続可能な開発目標）について深い探究活動を展開することに重点が置かれています。2020年度はオンラインで全国各地から集結した高校生たちと切磋琢磨しながら、口頭やポスターでの発表、グループディスカッション等を行い、問題解決能力やプレゼンテーション能力の向上を図ります。

SDGsオンラインミーティングWWL生徒交流会

自分たちがSDGsの解決の主体としてこれから何ができるのかについて、多くの他校の高校生と一緒に考え、互いに学びを得ることを目的としたプログラム。拠点校である本校と、連携校からの有志生徒で構成された実行委員会を結成し、講師の選定、交渉や企画の詳細に関する立案、広報用のチラシ作成などの準備だけでなく、当日の進行についても、生徒たちがイベントを受け身で参加するのではなく、自分たちのイベントとして責任を持って運営しました。

様々な高大連携講座の提供

高等部では、自由な選択科目や高大連携科目で自分の興味関心を見つけ、広げることができます。関西学院大学と連携し、3年生の選択科目に大学教授が直接担当する大学入門科目を複数設置しています。また、美術や音楽、時事英語、研究科目ほか多種多様な科目の中から自分の興味・関心に応じた科目を選び、少人数で自主的、主体的に学びます。「教科」の先に広がる「学問」の世界に触れ、学びの原動力となる知的好奇心を育みます。

PICK UP　英語インテンシブ・プログラム

選抜された生徒は、大学の教室で大学生と共に学べる「英語インテンシブ・プログラム」を受講できます。少人数クラス・オールイングリッシュで実施され、グループワーク等を用いた能動的学習環境が整っています。

今後の活動計画

WWLCの諸活動を起点とした先進的なカリキュラムの研究開発と実施

全学年において文理科目をバランス良く配置し、授業・課外活動双方において、
SDGsをキーワードとした体系的なカリキュラム開発を試行すると共に、下に示したような様々なキーワードをもとに、
学校全体としてWWLC活動に取り組んでいきます。

WWLC × ICT（情報通信技術）

ICTの活用で、より効果的な探究学習を進めていきます

全員がタブレット端末を持つ高等部において、ICTは学校からの各種連絡を受け取ったり、各授業での情報収集やプレゼン作成に使用する等、既に学校生活の基本ツールです。WWLCの活動においても様々な場面でICTが活用されています。例えば学校内だけでなく他校のメンバーとチームでプロジェクトを進める際の進捗管理や、大学生や社会人のアドバイザーからアドバイス等をもらう際のコミュニケーションツールとして、他にも授業・課外活動双方において、ICTを用いたポートフォリオを活用する仕組みを作り、生徒が質の高い振り返りを重ね、次の活動につなげられるようにして、主体性を育んでいく実践を行っています。

WWLC × 読書科

高等部伝統の読書科との連携で、探究学習を深化させます

40年以上の伝統のある、高等部3年間をかけて自分の好きなテーマで論文を書き上げる「読書科」の授業。特にWWLCの各科目を受講する生徒は、読書科での「課題設定」と「リサーチ」と、WWLCでの「フィールドに出ての学び」を結び付けて、より深い学びを目指します。

WWLC × 高等部のあらゆる場面で

日々の学びの中にSDGsの考え方を浸透させます

最終的には高等部における教育活動すべてが、WWLCの活動と関係してくると考えています。例えば、高等部が大切にしている礼拝の時間でも、キリスト教の教えのもとに、途上国への援助やジェンダーの問題等に取り組んでいる方々の活動に触れる機会が多くあります。また、各学年の人権講座やホームルーム・宿泊行事を、SDGsをキーワードに連動させていく試みも行っていきます。

関西学院大学への院内推薦に支えられて、自分のやりたい事を見つけ、
存分に打ち込める伝統的な高等部の学びを、より深め、進化させていくのが、関西学院高等部のWWLC活動になると考えています。

管理機関
学校法人 関西学院
〒662-8501
兵庫県西宮市上ケ原一番町1番155号
https://www.kwansei.ac.jp/

事業拠点校
関西学院高等部
〒662-8501
兵庫県西宮市上ケ原一番町1番155号
https://www.kwansei.ac.jp/hs

2021.3